

# いわき金成公園 里山づくり活動指針



平成16年3月  
いわき金成公園里山づくり委員会

# 目次

序章．はじめに	1
1．前提資料・先進地視察・実践活動等の整理	2
・いわき市小名浜金成地区土地利用計画市民検討会議 報告書	
・先進地視察 各委員レポートの整理	
・第1回里山体験ワークショップの整理	
・第2回里山体験ワークショップの整理	
・アンケート結果分析	
2．里山づくりの方針	5
・市民参加による段階的里山づくりの視点	
・市民参加による段階的里山づくりの方針	
3．市民参加による段階的里山づくり方針実現のしくみ	7
・具体的なアイデア	
4．市民参加による段階的里山づくりにおける里山の運営	15
・市民と行政の役割分担	
5．市民参加による段階的里山づくりのシナリオ	16
・全体のシナリオ	
・里山づくり支援団体の運営システム	
・里山づくり支援団体の運営組織	
6．附帯意見	23
<参考資料>	24

## 序章 . はじめに

---

小名浜金成地区一帯は、市街地の中央部に位置し、豊かな山林丘陵や作、水辺等の貴重な自然に恵まれていることから、その特性を活かした土地利用について平成 13 年度から市民検討会議を中心として検討を進めてきました。その結果、当地の利用については、市街地から身近な「里山」空間として再生と保全を図るため、多くの市民の方々が利用して自然とふれあうことができる空間の創出を提案してきました。

今年度においては、これまでの議論を踏まえ、市民の方々が段階的・継続的に里山づくりに参加することのできる活動指針を検討してきました。

ここに記されている指針は、市民の方々がこの里山を舞台に今後様々な関わりや活動を重ねていく中で継続的に積み上げられより具体的なものに磨きあげられていくものであります。そのためには多くの市民の方々に頻繁に里山へ足を運んで頂き、かつ、十分に利用して頂くことが必要です。

この指針が、里山の楽しさに触れ、足を踏み入れる第一歩として多くの市民の方々に活用されると同時に、私達の生活を根底で支えてくれる自然生態系の理解と保全活用という里山の新しい価値を、次世代に伝えていくことができる一助になればと考えております。

平成 16 年 3 月

いわき金成公園里山づくり委員会

委員長 富田 武子

## 1 . 前提資料・先進地視察・実践活動等の整理

活動の方針やしくみを考えるにあたって、これまでに議論されてきた意見や活動を通して得られた情報を整理します。

### いわき市小名浜金成地区土地利用計画市民検討会議 報告書

平成14年度、いわき市小名浜金成地区土地利用計画市民検討会議を中心に、環境・歴史等の現地調査、ワーキンググループ活動等を行い、環境特性を掘り下げた、具体的な土地利用計画を検討しました。

テーマ：「里山の新しい価値を創造し、次の世代に伝える」

土地利用の方向性

・里山の再生・保全と利活用

整備推進の考え方

・市民参加による段階的整備

管理運営の方向性

・行政市民 NPO 等の協働による利用が管理につながる管理運営

### 先進地視察

平成15年8月、神奈川県横浜市にある「横浜市立舞岡公園」と「横浜自然観察の森」を視察し、当委員会各委員から以下の意見が寄せられました。

(1) いわき金成公園における将来的に実現可能性の高い里山活動について

農業体験、森林体験、観察・調査研究、生活体験、文化活動、情報発信、人材育成、情報蓄積

(2) 各施設のより良い利用法について

昨年度の報告書を念頭に段階的整備を進め、また、PR面の改善を図る。

(3) 行政と市民の役割分担

行政はハード面、市民はソフト面を担い、市民と行政の協働により進める部分については、人的面は市民が里山活動として楽しみながら行い、経済的面は行政が負担できるようにする。

## 第1回里山体験ワークショップの整理

平成15年9月28日、いわき金成公園区域内「岩出の郷」にて、自然観察会や木工クラフト、意見交換会を行いました。幼稚園児・小学生を合わせた子ども14名、大人40名、スタッフ24名の計78名が参加しました。

### 参加者意見

最低限の整備は必要。ただし、作りすぎるのは良くない。

「伐採が多すぎる～これで十分～2mくらい～4、5m」のように道一つを取り上げて様々な意見がある。



里山を整備すること自体には肯定的だが、具体的な部分で意見の隔たりがある。

### 委員意見

駐車場はそれなりのものが必要だ。

何を始めるにも、物置くらいは早急に必要。

## 第2回里山体験ワークショップの整理

平成15年11月15日、いわき金成公園区域内「金成の郷」にて、自然観察会や里山写真鑑賞会、アンケート調査を行いました。子ども3名、大人34名、スタッフ25名の計62名が参加しました。

今後のPR戦略としては、委員による呼びかけのほか、広報いわきの活用が重要

### 里山写真鑑賞会での意見

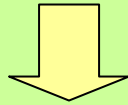
- ・段階的な整備
- ・順応的な生態系の管理
- ・生物多様性への配慮

## アンケート結果分析

このアンケートは、第2回里山体験ワークショップ参加者を対象に、第1回里山体験ワークショップで寄せられた意見の中で、特に意見の隔たりが見られた部分を中心に調査を実施しました。回答総数は44名でした。

### アンケート結果の概要

- ・市民においても「里山」についての正確な認識が深まっているが、なお、一層の認知度の向上を図る必要がある。
- ・里山活動に対しては、好意的回答が100%を占めている。
- ・自然観察会や里山保全活動など軽度の活動に参加希望が多い。
- ・園路は、舗装に注意して里山の管理運営に必要なものを整備すべき。
- ・建物は、小屋・トイレ、ビジターセンター等の整備が求められている。
- ・水辺・森は、生物の多様性を確保できるような活用法が良い。
- ・参加者は都市部の住民が大半であった。



これらをまとめると、次のようになる。  
「市の整備する施設については、生物多様性に配慮した必要最小限のものを段階的に整備する」

## 2. 里山づくりの方針

### 市民参加による段階的里山づくりの視点

平成14年度のいわき市小名浜金成地区土地利用計画市民検討会議及び平成15年度の当委員会の活動の中から得られた意見や情報を、段階的な里山づくりを進めていくために留意すべき事項として次の5つの視点に整理しました。

1. 自然環境に配慮した里山づくり
2. 市民の活用に合わせた段階的里山づくり
3. 誰もが安心して利用できる安全な里山づくり
4. 多くの人と里山の情報を共有できるしくみづくり
5. 市民と行政が協働で里山整備を進める体制づくり

それぞれについて詳しく説明すると、以下のようになります。

### 市民参加による段階的里山づくりの方針

#### 1. 自然環境に配慮した里山づくり

「里山」なので、「保全」ということも目的の1つとしていく。

外来種・移入種を抑制し、遺伝子レベルで環境の保全に努める。

新エネルギーの導入についても検討する必要がある。

自然を利用するに当たっての、順応的な生態系管理のための動植物への配慮の方針を利用形態（導入施設）ごとに段階的に決めていく必要がある。

下草刈りや間伐の継続的实施により里山の適正な維持更新を図る。

#### 2. 市民の活用に合わせた段階的里山づくり

活用しやすい場所から里山活動を起こしていく。

里山活動を支える施設整備から段階的に整備を進める。

4つの郷ごとの特性に配慮した整備や利活用を講じる。

自然を利活用するための配慮方針を利用形態ごとに段階的に定めていく。

誰もがあって良かったと思えるように十分な合意形成を図りながら進める。

#### 3. 誰もが安心して利用できる安全な里山づくり

里山内の危険箇所における安全確認 手すりや柵 整備を進める。

危険を未然に防止するため、動植物の特性や緊急時の対処法など、安全教育のための情報提供を充実させる。

利用のためのルールづくりや規制のための対策（制札板整備）などの整備を進める。

---

#### 4. 多くの人と里山の情報を共有するしくみづくり

広報誌などを活用した広域への情報発信を進める。

イベント開催等により幅広い年齢層の里山活動への参加を促す。

#### 5. 市民と行政が協働で里山整備を進める体制づくり

里山活動に際しては、活動ノウハウや安全情報、自然情報などの情報蓄積を図る必要がある。

里山活動を支援する団体の拾い出しを行い、またその団体の得意な里山活動分野を活かすことができるしくみづくりを整備する。

市民参加による活動を始めるには、最低限の施設整備（物置、駐車場、トイレ、給水施設）や、市民参加の活動に対する経済的なバックアップなどが必要であると思われる。当面は、仮設でも、物置や駐車場の設置は不可欠である。

市内外の里山で活動する団体との連携を強化する。

新たに市民主体で結成される管理運営団体は、協働のパートナーである行政に対して、積極的に里山づくりに必要な提案を行う。

### 3. 市民参加による段階的里山づくり方針実現のしくみ

#### 具体的な活動アイデア

農業体験：(稲作、畑作、果樹栽培、里山牧場、堆肥づくりなど)

活動アイデア：稲作体験(田植え、稲刈りなど)畑作体験、果樹栽培、水田の冬期湛水・<sup>たんすい</sup>不耕起栽培、家畜の飼育(山羊、牛など)堆肥づくり



稲作体験(田植え)



(稲刈り)

田んぼあつての里山、人々の暮らしが育てた里山とそこで得られる食の恵みを体感します。



畑作体験



堆肥づくり



家畜の飼育

山羊や牛などの飼育を通して、食のありがたみと生命の尊さを感じられます。

当ページ以降の掲載写真はイメージ例です。

## 具体的な活動アイデア

森林体験：(里道づくり、林床管理、間伐材の利活用、炭焼き、山菜採取など)

活動アイデア：里道のルート調査・開削、下草刈り、落葉掻き、間伐、間伐材の利用、薪づくり、炭窯づくり、炭焼体験、金成・岩出地区を中心にササ・タケの除去作業、薪割り体験、キノコ狩り、タケノコ掘り



道づくり



下草刈り

下草刈りは里山管理の基本。山が元気になると同時に、道ができ、広場ができ、活用空間も広がります。



間伐



間伐材の利用(小屋)



炭窯づくり



炭焼体験

里山資源の循環。間伐材で炭をつくり、その炭は水を清め、熱になり、里山と人々の活動を支えます。



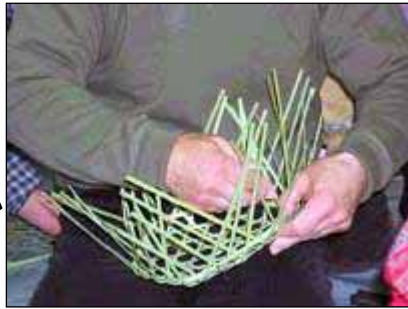
タケノコ掘り

## 具体的な活動アイデア

生活体験：(食品加工、里山レストラン、藁細工、木工など)

**活動アイデア**：味噌づくり、漬物づくり、郷土料理づくり、そば打ち体験、薪集めの後それを使った飯盒炊飯、藁細工、竹細工、つる細工、木工クラフトづくり、里山料理づくり、里山レストランの運営

里山の資源を活用した生活の知恵。それぞれの地域にいろいろな形の竹細工が伝わっています。



竹細工



郷土料理づくり

食の体験は年齢を問わず魅力のあるもの。海と山の幸を活かしたいわきならではの里山料理を楽しみましょう。



(ちくわづくり)  
里山料理づくり



(木の実料理)



木工クラフト



## 具体的な活動アイデア

観察・調査研究：(植生調査、湧水調査、自然観察、大学・高専等との研究教育など)

活動アイデア：動植物や貴重種の分布図づくり(データの集積)、地形地質調査、散策体験、水棲プランクトン調査、湿地調査、水質調査、歴史調査、モニタリング、里山指標(里山自然度)づくり、自然観察体験、バードウォッチング、森のちびっこ探検隊、溜池の観察

里山の実態を知るためのもの。動物、植物、歴史などいろんな里山の姿を地図に記録していきます。



動植物の分布図



散策体験



自然観察体験



(バードウォッチング)



(昆虫観察)



森のちびっこ探検隊



水質調査

子どもの頃から自然に親しむことは、大切なこと。普段の生活では学べないことが里山にはたくさんあります

## 具体的な活動アイデア

文化活動：(写生会、写真展、総合学習、公園づくりなど)

**活動アイデア**：写生会、写真展、展覧会、初等教育における総合学習への支援、パウチづくり、こすり出し、染色、草木染、ネイチャーゲーム、遊び場づくり



写真展・展覧会



パウチづくり



草木染め

里山での活動の成果や里山の様子を多くの市民の皆さんに知ってもらいたい機会です。



遊び場づくり



ネイチャーゲーム

里山の雑木林や間伐材を活用して、子どもから大人までが楽しめるオリジナルの公園が出来ます。

## 具体的な活動アイデア

情報発信：(里山のPR、里山活動の普及・啓発、他地域との連携など)

**活動アイデア**：自然体験等のワークショップ、情報誌の発行(里山かわら版)、マスコミやメディアと通じた情報発信(コミュニティFM、インターネットなど)、イベント開催(シンポジウム、収穫祭など)、他の里山活動団体との交流、アンケート、研究教育成果誌の出版



ワークショップ

楽しみながら里山について考えたり、自然体験をしたりとたくさんの人を交えて行います。

その時々々の里山の出来事や様子を広く一般に伝え、里山について知ってもらいます。かわら版だけではなく、インターネットを使っても効果的です。



シンポジウム



インターネット



里山かわら版



アンケート

## 具体的な活動アイデア

人材育成：(里山運営の組織化、里山学校、指導者養成、自立的経営など)

**活動アイデア**：ボランティアの組織化と人材登録(里山友の会など)、里山学校の開催、指導者や里山インストラクターの養成、里山ガイドの育成、利用時のルールづくりとその周知、市民主体による里山団体の形成、里山産品の利用による運営費用の捻出、経営感覚を持った市民の育成



ボランティア登録



里山ガイドの育成

里山を正しく理解して活用するためには先導してくれる人材が必要です。



里山インストラクターの養成



里山産品の販売



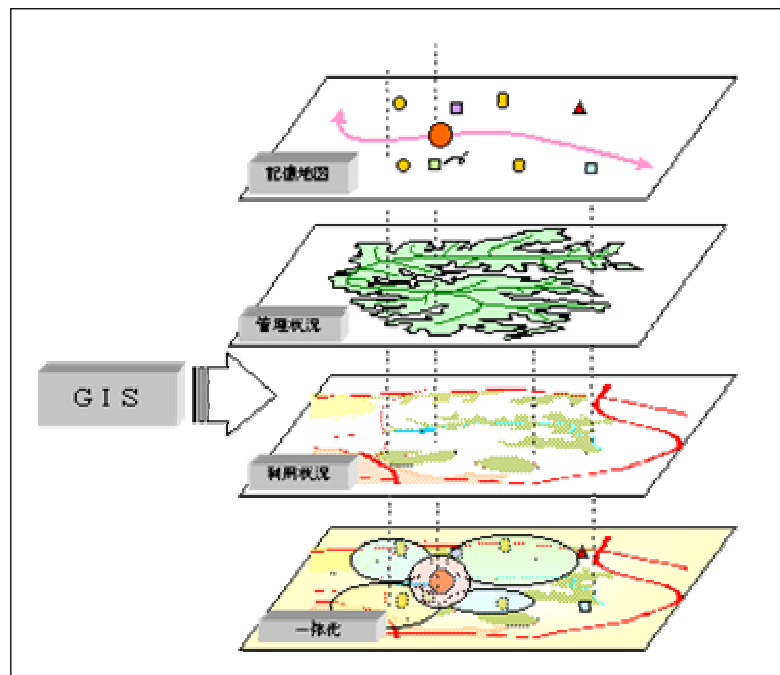
里山レストラン

里山の魅力を紹介するとともに、里山の資源により活動費用を確保することもできます。

## 具体的な活動アイデア

情報蓄積：(GISの利用、次世代への活動ノウハウの継承、安全情報、自然情報など)

**活動アイデア**：GIS(地理情報システム)を利用した環境情報管理システムによる利用と管理の一体化、総合学習への支援、市民による活動記録づくり、活動のデータベース化、各地の里山づくりに関する情報収集と保管活用・貸し出し



GISの利用

GISは様々な情報を地図の上に重ねて記録できます。これを活用することで、利用や管理を有効に行うことができます。



活動記録づくり

## 4 . 市民参加による段階的里山づくりにおける里山の運営

今後、段階的・継続的に里山を整備・管理・活用していくためには、主体的に関わりを続ける市民と、それを支援する行政の協力が不可欠です。ここでは、ソフト・ハード両面の充実にかかる市民・行政の役割について示しています。

### 市民と行政の役割分担

#### 市民の役割

基盤整備後の管理運営や利活用など、  
ソフトプログラムの充実とその運営を担う

#### 市民と行政の協働

材料費は行政が負担し、作業は市民が行うなど、  
経済的な面は行政が負担し、人的な面は市民が里山活  
動として楽しみながら行っていく

#### 行政の役割

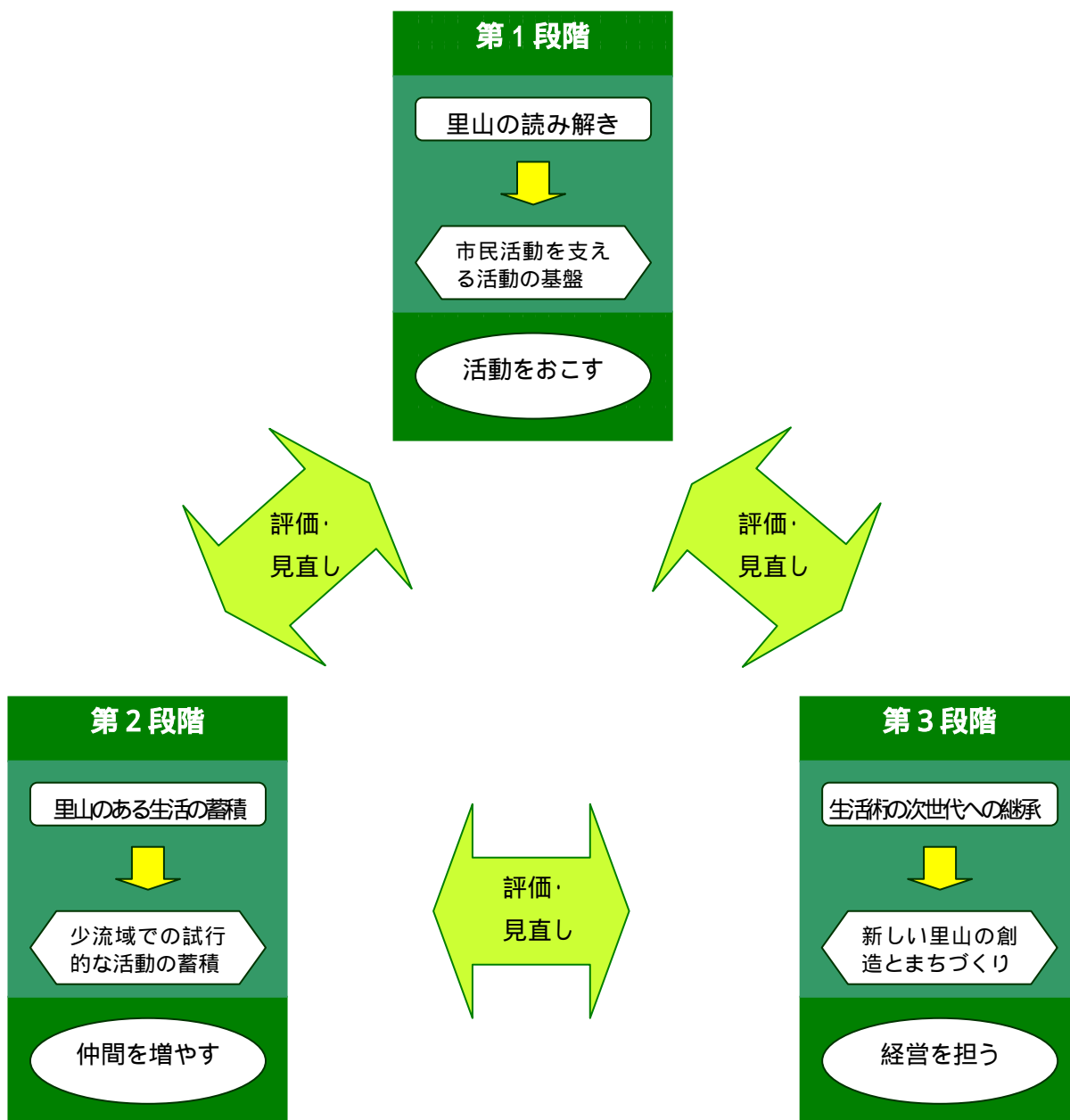
駐車場、通路、トイレ、道具小屋、安全施設等基盤となる、  
ハード施設整備を先行して行う

## 5. 市民参加による段階的里山づくりのシナリオ

### 全体的なシナリオ

ここでいう段階的なシナリオは、市民参加の里山づくりを進めていくプロセスを分かり易く整理するために、各段階のテーマ・目標とそこでの活動と整備、市民参加のイメージを例示したものであります。

したがって、実際の里山整備の場面では、活動メニューの各段階における取組みが同時並行的に、また試行錯誤を繰り返しながら、各段階が循環するような形で進めていくものであり、課題に対する達成内容に応じた計画や活動の評価・見直しを図っていくことを含んでいます。



(第1段階)

『里山の読み解き』

現地でのワーキング活動をもとに新しい価値としての里山らしさを明らかにし、多くの市民が里山らしさにふれ体験できる試行を重ねていく段階

【課題】

- エリア全体の現地踏査
- 流域の特徴づけと関係性の整理
- 過去の里山利用の調査
- 里山の指標の再発見と再整理
- 里山ワークショップの開催
- 市民参加の啓発と世論形成

基本方針

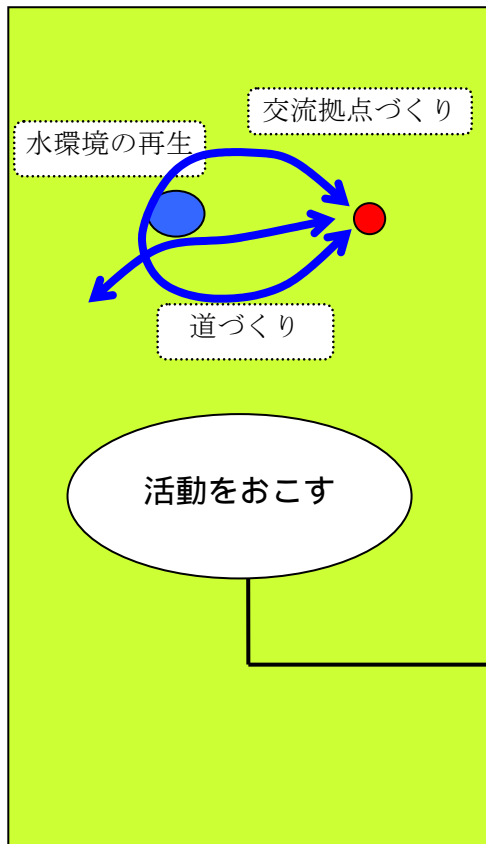
市民参加を支える活動基盤の整備

活動と整備

- ・ 植生調査
- ・ 里道づくり
- ・ 湧水探し
- ・ 自然観察体験等のワークショップ
- ・ 外来植物の除去  
(セイタカアワダチソウ、ブタクサなど)

市民の参加

- ・ 植生図や貴重植物の地図化
- ・ 昔の里道のルートを調査・開削し、間伐材などをチップ化して敷設
- ・ 地形地質を調査し、今後の水源に活かせる湧水を探索
- ・ ワークショップにより認知度の向上に努め、里山に興味を持ってもらう
- ・ 「里山暮らし回顧記録」の編集・出版



(第2段階)

『里山のある生活の蓄積』

「市民参加の里山づくり」の実験と順応的な生態系管理のためのモニタリングを積み重ねて、「里山の生活術」の知恵と技術を蓄積していく段階

【課題】

- 里山の資源を活用した整備
- 資材の現地調達と地場産材の活用
- 市民・行政・企業の連携
- 試行的な事業推進と主体形成
- 市民運営のルール化と共有化
- 利用者の自己責任範囲の明確化

基本方針

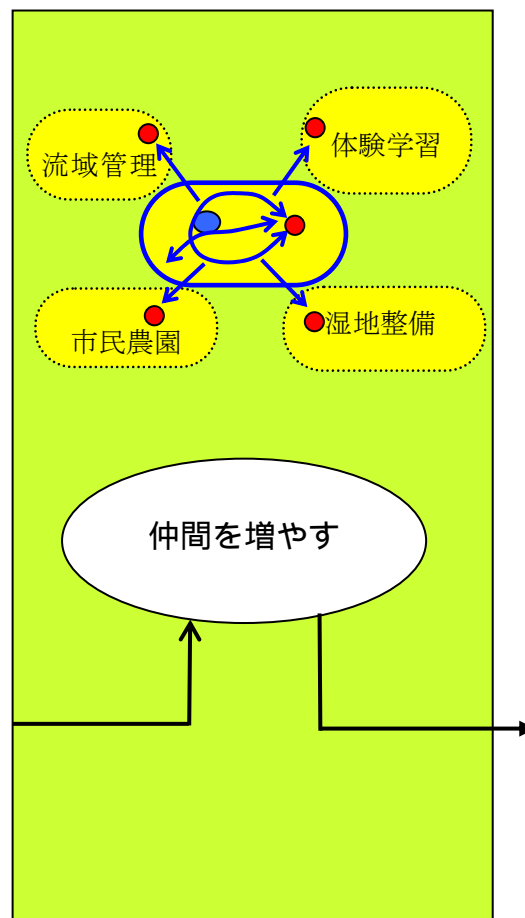
小流域での試行的な活動の蓄積

活動と整備

- ・林床管理による森林保全活動
- ・冬期湛水<sup>たんすい</sup>水田や畑での農業体験
- ・炭窯づくり
- ・里山かわら版の発行
- ・市民による里山運営ボランティアの組織化
- ・里山学校の運営
- ・水関係の利用

市民の参加

- ・下草刈り、間伐、落葉掻き等の林床管理活動
- ・水田<sup>たんすい</sup>の冬期湛水・不耕起栽培
- ・間伐材を用いて薪づくりや炭焼
- ・多くの市民への里山活動の参加の啓発
- ・市民主体による里山団体の形成
- ・里山学校の運営を通じた指導者養成と利用者の自己責任のルール化及びその周知徹底



(第3段階)

『生活術の次世代への継承』

蓄積された知恵や技を広く情報発信し、次世代の子ども達に引き継ぐために、自立度の高い里山経営のモデルとなる体制を構築する段階

【課題】

- 小流域を単位とした管理
- 利用が管理につながる整備
- 里山利用の手引書の作成
- 総合的学習によるノウハウの継承
- 協働を支える組織の設置
- 里山経営を担うNPO等の育成
- 里山研究教育成果の報告書出版及び交換情報の保管活用
- 里山の博物館的機能の充実

基本方針

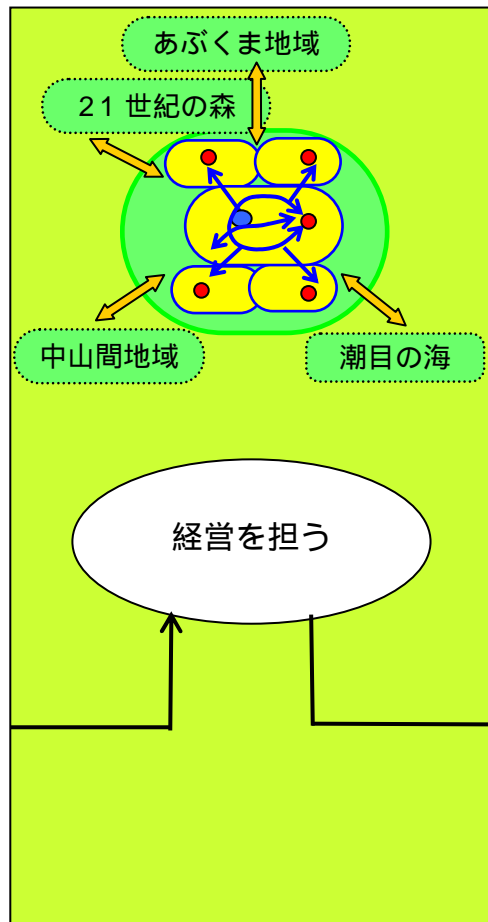
新しい里山の創造とまちづくり

活動と整備

- ・ GIS を用いた環境情報システムの導入
- ・ 大学・高専との研究教育
- ・ 次世代への里山活動ノウハウの継承
- ・ 里山の総合的文化のPR
- ・ 里山産品の利用による運営費用の捻出
- ・ NPO等による里山の自立的経営
- ・ 他地域との連携
- ・ 里山に関する蓄積情報の出版

市民の参加

- ・ 誰でも簡単に情報を発信・受信することにより利用と管理の一体化を進める
- ・ 里山指標（里山自然度）等を高等教育機関と連携して研究
- ・ 総合学習との連携
- ・ 収穫祭
- ・ 食品加工、里山レストラン
- ・ 経営感覚を持った市民による里山経営
- ・ 広域ネットワークとの連携
- ・ 社会福祉養護教育への支援活動



## 里山づくり支援団体の運営システム

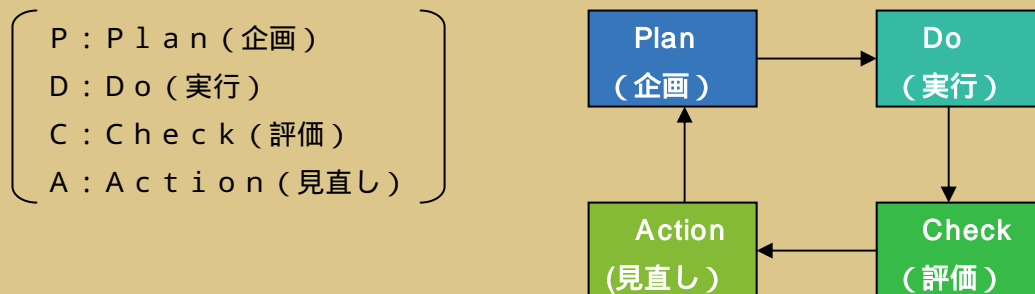
経営管理手法の1つに、PDCA サイクルと呼ばれる方法があります（下図参照）。

これを、里山づくり支援団体の運営システムに応用すると、次のようになります。

市民による里山づくり支援団体が、利害調整を進めながら企画・計画の立案を行い、次に 予算配分を通じて計画を実行・運営し、さらに 実行後、計画について里山づくりの方針に基づいた事業評価をし、そして 評価結果を改善・見直しに反映させ、よりよい企画・計画につなげ、再び PDCA サイクルを循環させ、里山づくりの段階をさらに進めていくことにより、段階的整備の各段階を進めることができると考えられます。

ゆえに、段階的里山づくりの実行方策としては、市民による里山づくり支援団体が PDCA サイクルを取り入れた運営システムを実行することが効果的であると考えられます。

### 参考：PDCAサイクルのしくみ



Plan (企画): 利害調整を進めながら企画・計画の立案を行う

Do (実行): 予算配分を通じて計画を実行・運営する

Check (評価): 実行後、計画について里山づくりの方針に基づいた事業評価を行う

Action (見直し): 評価結果を改善・見直しに反映し、より良い企画・計画につなげる

## 里山づくり支援団体の運営組織

里山づくりにおける市民の役割については、以下のように整理されました。

- ・市民の役割 : 基盤整備後の管理運営や利活用など、ソフトプログラムの充実とその運営を担う
- ・市民と行政の協働 : 材料費は行政が負担し、作業は市民が行うなど、経済的な面は行政が負担し、人的な面は市民が里山活動として楽しみながら行っていく

これらの条件に合致し、さらに段階的整備を行うことができるような里山づくり支援団体の運営組織については、核となるメンバーの下、ルールを決め、また、事業と資金の計画を立てることができる団体である必要があると考えられます。

具体的には以下のようなものが考えられます。

市民主体の運営を行う

里山で日常的に活動する市民ばかりでなく、多様な主体の参加が可能である  
行政からの運営委託や、様々な団体からの助成を受けることが可能である  
活動によって得られるノウハウの蓄積が可能である

PDCA サイクルを取り入れた運営システムを実行できる

これまでの市民による検討結果を踏まえた里山づくりを実行できる

これらを満たす運営組織とは、次のようなものといえます。

運営主体は自立した意思決定を行える

明確なルールと柔軟な組織構造を有している

NPO などの法人格を有する団体であることが望ましい

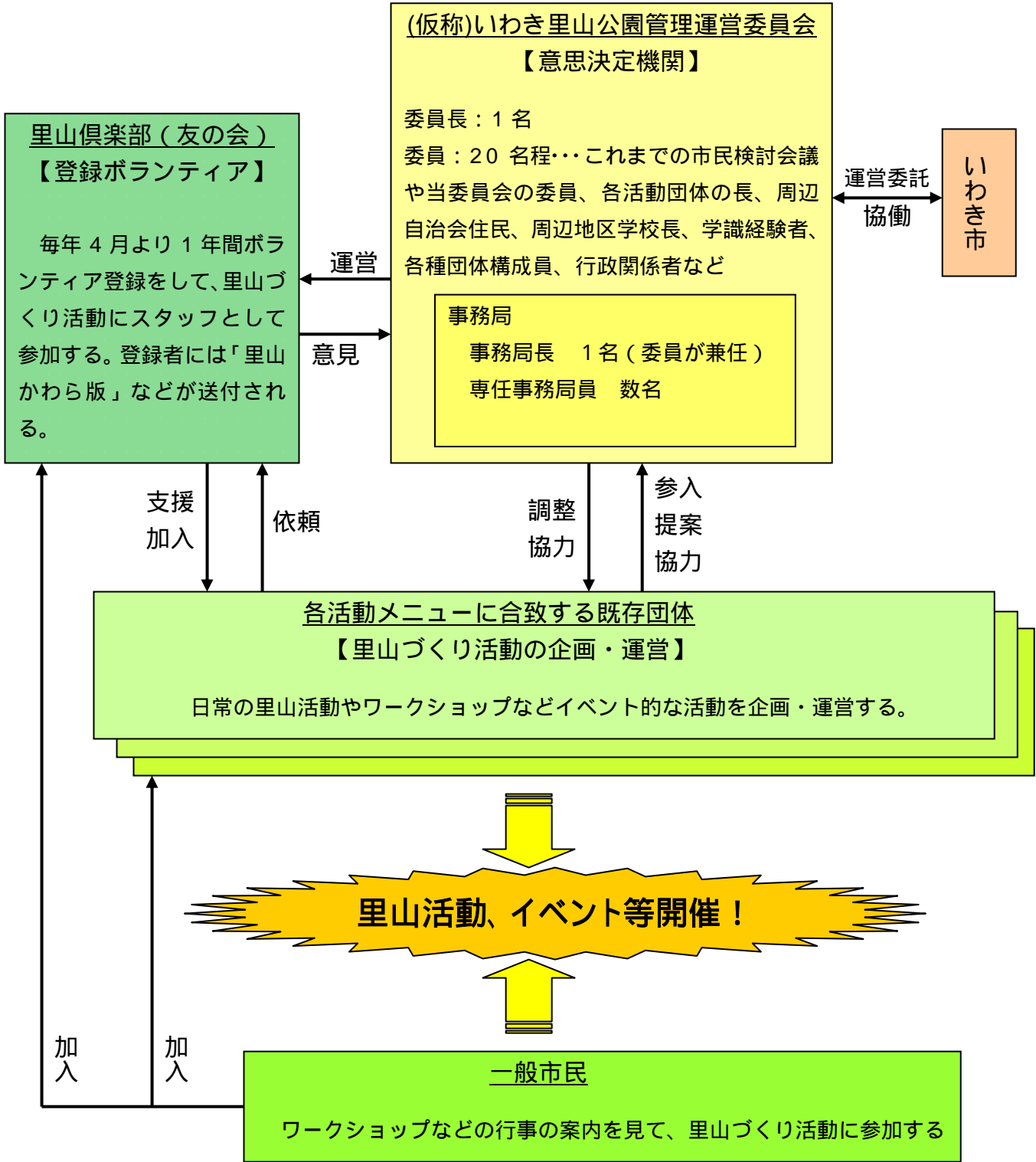
継続的な運営によりノウハウの蓄積を図ることが望ましい

運営に際しては各界各層から人材を求めることが必要である

これまでの市民検討会議や当委員会の委員が運営に参画することが必要である

以上を満たすような運営組織の参考イメージ（例）を、次ページに示します。

運営組織の参考イメージ（例）



以上を踏まえて、次のような課題解決が必要である

当面の課題

活動を起こすにあたっては、**当面は、当委員会のメンバーなどが核となり、事務局機能を立ち上げ、各活動メニューに合致するような既存団体の取り込みや広報活動を図ることから始めるのが最善である**と思われます。

## 6 . 附帯意見

---

### 【活動展開の方向性】

アクセス性が良い岩出の郷から里山活動を起こしていく。

里山活動を支援する団体の活動内容は、その団体の得意な里山活動の分野を活かしたものとす。

既存の概念や枠内での発想にとらわれずに、他の社会施設で行われている活動概念を取り込んだり、独創的な発想を促したりして、積極性を発揮することが重要である。

### 【施設整備の方向性】

自然を利用するに当たっての、動植物への配慮の方針を利用形態（導入施設）ごとに段階的に決めていく必要がある。

市民参加による活動を始めるには、最低限の施設整備（物置、駐車場、トイレ、給水施設）や、市民参加活動に対する経済的なバックアップなどが必要であると思われる。当面は、仮設でも、物置や駐車場は不可欠である。

市の整備する施設については、生物多様性に配慮した必要最小限のものを段階的に整備する。

### 【人材育成の必要性】

市民と行政の協働による里山運営を実現するためには、里山活動を先導する里山インストラクターなどの人材を養成するシステムが必要であり、担当行政職員・市民ともに教育を受け、かつ考究することが望ましい。そのため、既存システムへの参加や里山学校などの機会を設け、独自システムの構築を視野に入れた活動が不可欠である。

## 参 考 資 料

- 1 . いわき金成公園里山づくり委員会設置要綱 . . . . . 2 5
- 2 . いわき金成公園里山づくり委員会 委員名簿 . . . . . 2 6
- 3 . 平成 1 5 年度活動履歴 . . . . . 2 7
  - ( 1 ) いわき金成公園里山づくり委員会活動履歴
  - ( 2 ) 部会活動履歴

# 1. いわき金成公園里山づくり委員会設置要綱

---

## いわき金成公園里山づくり委員会設置要綱

### (設置)

第1条 市の中心部に位置し、貴重な里山的環境に恵まれている小名浜金成地区一帯において、いわき市小名浜金成地区土地利用計画市民検討会議の報告(平成15年3月)を踏まえ、いわき金成公園における里山づくりを調査・検討するため、いわき金成公園里山づくり委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

### (所掌事務)

第2条 委員会は、市民が主体となった実践活動を通じながら、次に掲げる事項について調査・検討を行うものとする。

いわき金成公園における里山の整備に関すること

いわき金成公園における里山の管理運営に関すること

その他いわき金成公園における里山づくりに関すること

### (組織)

第3条 委員会は、委員15名以内で組織し、委員は、市長が委嘱する。

2 委員の任期は、第1条に掲げる目的を達成するまでとする。

### (役員)

第4条 委員会には、委員長1名及び副委員長1名を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 副委員長は、委員長が指名する。

4 委員長は、会議を総括し、委員会を代表する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第5条 委員会による会議は、委員長が召集し、会議の議長となる。

2 委員長は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

### (顧問)

第6条 委員会に、里山づくりの調査・検討に必要な専門的な助言を得るため、若干人の顧問を置くことができる。

### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、いわき市都市建設部都市計画課において処理する。

### (補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

## 附 則

この要綱は、平成15年7月2日から実施する。

## 2. いわき金成公園里山づくり委員会 委員名簿

役 職	氏 名	所 属
委員長	とみた たけこ 富田 武子	いわきキノコ同好会会長 日本菌学会会員 キノコアドバイザー
副委員長	まつさき かずよし 松崎 和敬	いわきの森に親しむ会代表世話人
委 員	いなば としお 稲葉 俊男	(団体推薦)小名浜金成区
"	かまた まりこ 鎌田 真理子	いわき明星大学助教授 (人文学部現代社会学科)
"	くさの ひでお 草野 秀雄	いわき市環境アドバイザー 日本自然保護協会指導員 (財)日本野鳥の会いわき支部幹事
"	さくま あきら 佐久間 昭	(団体推薦)玉川町連合会
"	しょうじ ひでお 庄司 秀夫	(団体推薦)鹿島地区地域振興協議会
"	とりうみ ようたろう 鳥海 陽太郎	いわき地域学会自然部会長
"	ながい としゆき 永井 俊之	(団体推薦)小名浜林城区
"	はこぎき よしのり 箱崎 義憲	(団体推薦)常磐三沢町区
"	はらだ まさみつ 原田 正光	福島工業高等専門学校助教授 (建設環境工学科)
"	ふかざわ えいこ 深沢 榮子	いわき市環境アドバイザー 福島県植物調査会会員
"	ふるかわ まちこ 古川 眞智子	福島県もりの案内人
"	まつさき まさのぶ 松崎 正信	いわき市森林組合参事 いわき青年林業会議所事務局長
"	やまのべ まさる 山野辺 勝	(団体推薦)小名浜岩出区
顧 問	なかしま きいち 中島 紀一	茨城大学農学部教授 (地域環境科学科)
"	げんま いちろう 弦間 一郎	(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団業務課長 福島県もりの案内人養成講師
"	ふるうち えいいち 古内 榮一	いわき市公園緑地観光公社理事
計 18 名	委員 15 名 顧問 3 名	

### 3 . 平成 1 5 年度活動履歴

#### ( 1 ) いわき金成公園里山づくり委員会 活動履歴 概略

日時	内容	参加者
7/30 (水)	第 1 回会議 (場所: パレスいわや) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委嘱状交付、委員長 &amp; 副委員長の選出</li> <li>・ 経過及び今後の進め方の確認</li> <li>・ 現地視察</li> </ul>	委員: 14 名 事務局: 9 名
8/9 ~ 8/10	先進地視察 (9 日: 横浜市舞岡公園 10 日: 横浜自然観察の森)	委員・顧問: 11 名 事務局: 6 名
8/25 (月)	第 2 回会議 (場所: いわき市文化センター 2 階会議室) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度報告書の整理</li> <li>・ 実践活動 (ワークショップ) の具体案決定</li> </ul>	委員: 13 名 事務局: 8 名
10/24 (金)	第 3 回会議 (場所: 市役所 6 階 第 6 会議室) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 回ワークショップの結果報告</li> <li>・ 第 2 回ワークショップの内容検討</li> <li>・ 里山づくり指針作成のための方針整理</li> </ul>	委員・顧問: 12 名 事務局: 5 名
12/18 (木)	第 4 回会議 (場所: 市役所 7 階 第 7 会議室) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回ワークショップの結果報告</li> <li>・ 里山体験ワークショップアンケートの結果について</li> <li>・ いわき金成公園里山づくり活動指針の素案について</li> <li>・ 今後のスケジュールについて</li> </ul>	委員・顧問: 14 名 事務局: 6 名
2/12 日 (木)	第 5 回会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いわき金成公園里山づくり活動指針の策定について</li> </ul>	委員・顧問: 12 名 事務局: 9 名

(2) 部会活動履歴

日時	内容	参加者 (委員については両部会の 合計人数)	
岩出の郷	9/10 (水)	・両部会の立ち上げ【両部会合同】 ・自然観察ルート(昔の里道)選定【ワークショップ部会】(市役所7階 第7会議室)	委員：14名 事務局：5名
	9/11 (木)	・貴重植物のマーキング【調査研究部会】 ・自然観察ルート(昔の里道)を開削【ワークショップ部会】	委員：8名 事務局：4名
	9/19 (金)	・自然観察ルート(昔の里道)の下草刈り	事務局：4名
	9/23 (火)	・自然観察ルート(昔の里道)の安全確認 ・自然観察ルート(昔の里道)の観察ポイント確認【両部会と案内人の合同作業】	委員：5名 いわきの森に親しむ会案内人：9名 事務局：1名
	9/28 (日)	・第1回里山体験ワークショップ 「昔の里道を歩こう! ~岩出の郷に行こう~」 ・WS終了後に次回の金成の郷のルート選定【ワークショップ部会】	一般市民参加者：54名 委員：11人 いわきの森に親しむ会案内人：8名 事務局：5名
金成の郷	10/13 (月)	・植生調査とマーキング【調査研究部会】(岩出の郷~円後池北側の周回ルート)	委員：5名 事務局：1名
	10/29 (水)	・貴重植物のマーキング【調査研究部会】 ・自然観察ルート(昔の里道)を開削【ワークショップ部会】	委員：5名 いわきの森に親しむ会案内人：3名 事務局：6名
	11/8 (土)	・自然観察ルート(昔の里道)の安全確認	事務局：3名
	11/15 (土)	・第2回里山体験ワークショップ	一般市民参加者：37名 委員：11名 いわきの森に親しむ会案内人：8名 事務局：6名

上記以外の日にも、委員等が自主的に入山し調査等を行った。